

# 栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成21年6月10日  
栃木県教育委員会  
宇都宮市埜田1-1-20  
TEL 028-623-3425  
編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団  
埋蔵文化財センター  
下野市紫474  
TEL 0285-44-8441  
FAX 0285-44-8445  
URL <http://www.maibun.or.jp>

## CONTENTS

- 平成20年度栃木県内の発掘調査情報
- ・市町教育委員会が実施した発掘調査から  
弥八田遺跡(西方町) 史跡榊崎寺跡(足利市)  
藤井39号墳(壬生町) 鳥井戸遺跡(宇都宮市)  
高原山黒曜石原産地遺跡群(矢板市)

・埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から  
山の神II遺跡・欠ノ上I・II遺跡・小鍋内I遺跡  
(さくら市)

- 長沼城跡(真岡市) 小曾根遺跡(足利市)
- 平成20年度栃木県内発掘調査一覧
- 平成20年度栃木県発掘調査動向
- 「巡回展 栃木の遺跡」—最近の発掘調査の成果から—

2009  
6月

やま  
か  
い  
ど  
う



## ■平成20年度栃木県内の発掘調査情報

### 市町教育委員会が実施した発掘調査から

#### 1. 弥八田遺跡の発掘調査(西方町)

町の真名子地区の農家で、日ごろあまり見かけない弥生時代中期後半(今から約1,900年前)の土器を見せていただきました。自宅近くの畑で拾ったとのことでしたので、早速現地に案内していただき、掘削した崖の断面に残っていた土器片などを確認しました。現場の状況から、遺構が残っている可能性が高いと判断されたので、町史の資料収集を目的として8月18日から27日までの10日間、発掘調査を行いました。

遺跡は、真名子城跡から西方に下る尾根の鞍部で、標高約110mの南西向きの緩い斜面となっている場所に立地しています。調査は、2m四方の調査区(グリッド)を設定し、土層断面を残して約10㎡を掘り下げました。その結果、地表から40cmほどのところで土器の破片がややまとまって出土し、周囲を精査した結果、土坑墓と思われる遺構が2基確認されました。西側の第1号土坑墓には、渦巻文の施された壺がほぼ完全な形で納められていましたが、他には完全な形になるようなものは無く、土坑の下部からは大形の破片2、3個体分、上面からは小片が撒かれたような状態で出土しました。また、玉類などの副葬も確認できませんでした。掘り上がった土坑の計測値は次の通りです。第1号は長径が105cm、短径が90cm、深さが40cmで、第2号は長径が90cm、短径が75cm、深さが33cmの楕円形状でした。

発掘後、出土した土器を水洗し復元作業を行ったところ、渦巻文が施されていた短頸の壺にはベンガラによるものと思われる赤彩が施されていたことが分かりました。また、口縁部が割り取られていたことも判明したことから、骨などを納めた容器として使用されたものと推測されます。

(西方町教育委員会 0285-22-9668)



弥八田遺跡土坑墓全景(南から)



遺跡出土弥生土器(左:採集品、右:第1号土坑墓出土)

## 2. 史跡<sup>かばさきでら</sup>樺崎寺跡の発掘調査（足利市）

史跡樺崎寺跡は中世を代表する豪族武士団・足利氏の氏寺跡・<sup>びょうしよ</sup>廟所跡で、足利市北東の山間地、樺崎の谷に位置します。

樺崎寺は文治5年（1189）源姓足利氏二代目の足利義兼が奥州合戦の戦勝祈願のために創建したとされ、鎌倉・南北朝・室町時代を通して発展します。昭和59年度より行われた発掘調査では、八幡山山麓の堂塔跡や浄土庭園跡などが良好な状態で確認され、平成13年1月に国の史跡に指定されました。

平成20年度の発掘調査では、<sup>えんち</sup>園池北東部において南北朝期の池の東岸が良好な状態で確認され、園池北東部導水口から取り込まれた水を絞り込むように東岸が池側に大きく張り出す形状になっていたことが明らかになりました。池の護岸は粘土に10～20cm大の礫を貼って洲浜とし、護岸の傾斜は約20度であることがわかりました。

また、園池南部において江戸時代の<sup>あんきよ</sup>暗渠排水用の木樋<sup>もくひ</sup>が確認されました。樺崎寺の園池は江戸時代に鶴池と亀池の二つにわかれ、今回確認された木樋も江戸時代に亀池が溜池として利用されるようになって設置されたものと思われます。（足利市教育委員会 0284-20-2230）



園池北部東岸検出状況  
(手前が南北朝期、奥が室町期の護岸)



江戸時代の暗渠排水用木樋出土状況

## 3. 藤井 39 号墳の発掘調査（壬生町）

藤井 39 号墳は、国指定史跡「<sup>あづま</sup>吾妻古墳」の西側に位置する古墳です。町教育委員会では、古墳の規模と吾妻古墳との関連を調べるために発掘調査を行いました。

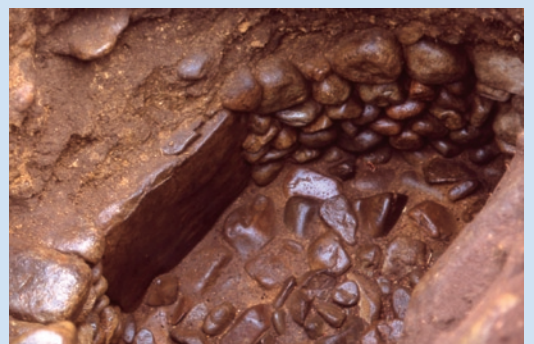
当初、墳丘測量の段階では、方墳の可能性もありましたが、調査の結果、墳丘の直径が約 35 m の二段に造られた円墳であることが確認されました。墳丘第一段の平坦面は幅広く造られており「<sup>きだん</sup>基壇」と称される吾妻古墳にも見られる特徴をもっています。墳丘の周りには幅 6 m、深さ 1.5 m 程の周溝がめぐっていましたが、石室は墳丘の南側に、川原石を小口状に積み造られていました。

天井石や奥壁の一部は抜き取られていましたが、その他は良好な状態で出土しました。とくに、死者を埋葬した<sup>げんしつ</sup>玄室に通じる<sup>げんもん</sup>玄門は、大きな川原石を巧みに組立てて造られていました。石室の中からは、埋葬者の頭の位置と推測される箇所から、一对の<sup>こんどうぼ</sup>金銅張りの耳環<sup>じかん</sup>が出土しました。今回の調査から、吾妻古墳が造られた後に、藤井 39 号墳が造られたことが分かりました。県内最大の規模をもつ吾妻古墳のすぐ西側に古墳を造れる人物とは、吾妻古墳に眠る人物に近い一族なのかもしれません。

（壬生町教育委員会 0282-82-8544）



玄室奥壁（南西より）



玄門（玄室内より）

## 4. 鳥井戸遺跡の発掘調査（宇都宮市）

鳥井戸遺跡は、宇都宮市の南東部、鬼怒川の左岸に南北に連なる台地上にあり、昨年度調査を実施した下西原遺跡から谷を挟んで500 mほど東に位置します。市道改良工事に先立つ今回の調査では、古墳時代後期及び平安時代初期の集落跡が確認されました。

竪穴住居跡では、一辺6 m前後の比較的大きな住居跡が2軒、一辺3～5 mの小さな住居跡が9軒確認され、中には焼失したと考えられる住居跡も確認されました。

遺物では、須恵器の坏や土師器の甕などが多く出土しましたが、特徴ある遺物としては、住居跡内の土坑の底に据えられた器台と考えられる大きな須恵器や、一つの住居跡から出土した碁石のような白色と黒色の多数の小さな石もありました。その他、調査区の一部からは縄文時代の土器片等も出土していますが、縄文時代の住居跡等の遺構は確認されませんでした。

今回確認された住居跡は、遺物等から7世紀前半と、9世紀初めから中頃の時期と考えられます。下西原遺跡（7世紀前半）をはじめ、この地域の古代の集落の様子が明らかになってきました。

（宇都宮市教育委員会 028-632-2764）



SI-06 遺物出土状況（南から）  
カマドを中心に土師器の坏や甕が出土



SI-10 炭化物出土状況（北から）  
焼失したと考えられる平安時代の住居跡

## 5. 高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区の発掘調査（矢板市）

高原山黒曜石原産地遺跡群は、高原山の山頂付近に広がる後期旧石器時代の遺跡です。平成18年度から遺跡の具体的な年代・範囲・性格、あわせて高原山黒曜石の生成過程や使われた時代、また流通した地域の解明などを明らかにするため、5ヶ年の文化庁国庫補助を受けて発掘調査を実施しています。これまでの調査によって、後期旧石器時代初頭（約35,000年前）の時期に特徴的な台形様石器や、縄文時代への移行期（約14,000年前）の石器群と考えられる大型な両面加工尖頭器などが出土しており、後期旧石器時代全般を通じて石器製作が行われたと判断されます。また、石器製作に必要な大量の黒曜石を入手するための採掘が行われるなど、国内屈指の原産地遺跡として評価することが可能です。

年間の調査日数が僅か20日前後に限定され、さらに2時間にもおよぶ現地への登山が調査上の大きな弊害ですが、国指定史跡の指定に向けて的確かつ綿密な調査を実施しています。なお、発掘調査最終年となる本年度の調査は、遺跡の範囲確認と採掘坑の究明を主目的としています。例年より調査着手時期を早めた6月に予定しており、間もなく開始されます。

（矢板市教育委員会 0287-43-6218）



平成20年度出土の石器



平成20年10月18日の現地説明会

## 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

### 6. 山の神Ⅱ遺跡、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡

#### (江川南部Ⅰ・Ⅱ地区)の発掘調査(さくら市)

喜連川丘陵には、北西から南東に流れる荒川とその支流に沿って、細長い谷が形成されています。このうちの江川沿いの谷の西岸には、西側の丘陵から張り出した緩い傾斜の台地上に、北から山の神Ⅱ遺跡、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡、小鍋内Ⅰ遺跡が立地しています。前者は平成19・20年度、後二者は平成20年度に発掘調査を実施しました。なお、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡と小鍋内遺跡は一続きの遺跡です。

**山の神Ⅱ遺跡** 奈良・平安時代や中世の集落跡を主として、縄文時代から近世までの遺構を調査しました。縄文時代の陥し穴と思われる土坑は、1列に並び、5基発見しました。古墳時代から古代では竪穴住居跡22軒を調査しました。古墳時代の1軒以外は、奈良・平安時代の住居跡で、カマドが北西と東に設置された2タイプにほぼ限定されます。この中の1軒からは、土師器に入った漆紙が発見されました。中世では掘立柱建物跡1棟と方形竪穴遺構8基の他、たくさんの土坑が確認されました。これらの遺構は溝跡によって区画された方形状の空間に関連しており、あるいは江川を挟んで所在する金枝城との関係があるのかもしれませんが。

**欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡** 縄文時代の前期と後期、古墳時代後期、奈良・平安時代の集落跡を調査しました。縄文時代としては、前期(今から約6,000年前)の竪穴住居跡12軒が発見されました。縄文土器や磨石・石皿が多く、狩猟用の石鏃や皮剥ぎ用の石匙も出土しました。石匙には、山形県米沢地方産の硬質頁岩を用いたものがあり、遠い地方との交流があったことがわかりました。古墳時代後期のカマドを持つ竪穴住居跡では、硬く焼けた土の層を検出しました。カマド周辺にあった土壁が焼けて硬くなり、倒れたと考えることもできます。奈良・平安時代は小形の竪穴住居跡と掘立柱建物跡を調査しました。掘立柱建物跡を役所のような施設とする考え方もあり、一般的な集落とは別な性格があったかもしれません。

**小鍋内Ⅰ遺跡** 古墳時代の中期・後期と平安時代の集落跡、中世以降の溝跡や土坑を調査しました。ここでは北側の欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡より続く、古墳時代から平安時代の集落跡が広がっています。発見された竪穴住居跡には、欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡より時期が遡る古墳時代中期のものが数軒含まれています。また、後期では南壁の中央に張り出しピットを備える大型の竪穴住居跡も確認されています。今回の調査で古墳時代の集落の南限が確認できました。



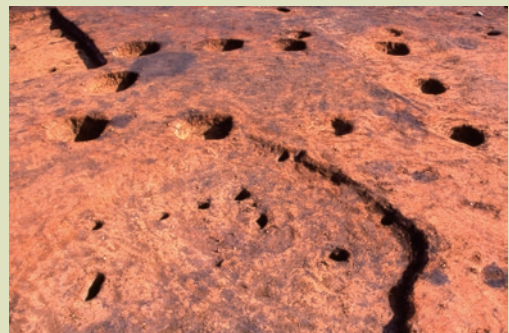
山の神Ⅱ遺跡 調査区全景(南東から)



山の神Ⅱ遺跡 漆紙出土状況



欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡  
縄文時代前期 竪穴住居跡(南から)



欠ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡  
古代 掘立柱建物跡(西から)

## 7. 長沼城跡の発掘調査（真岡市）

長沼城跡は、真岡市長沼地内にあります。久下田の市街地から南西へ3.5 km程の、鬼怒川東岸の低地から少し高まった場所に立地します。発掘調査は平成20年度に、緊急地方道路整備事業主要地方道栃木二宮線<sup>だいどういずみ</sup>大道泉工区整備に先立ち、7,700 m<sup>2</sup>を対象に行いました。調査の結果、長沼城に関わる堀約50条と、井戸や方形<sup>ほうけいたてあな</sup>竪穴遺構が発見され、青磁碗、常滑系や瀬戸系の陶器類、かわらけ、内耳土器などが出土しました。

長沼城は、長沼宗政（1162～1240年）により、築かれたとされています。出土遺物からは、13世紀の比較的古い時期に、二、三の井戸や城に関連するような施設が作られたことがわかりました。また、以前より城を囲う堀の場所が推定されており、北東方向へ突出する堀の一部を調査することができました。堀の規模は、上幅11 m、深さ2 m以上で、断面は逆台形状です。そして、突出部の外側にも、多くの堀や溝、井戸や方形<sup>ほうけいたてあな</sup>竪穴遺構が発見されました。城の範囲はより広大で、堀や溝は作りかえも行われたことがわかりました。



かわらけが多数出土した井戸（東から）



大規模な堀の調査状況（南西から）

## 8. 小曾根遺跡の発掘調査（足利市）

小曾根遺跡の発掘調査は、県道の整備に先だって、行いました。遺跡は、群馬県との県境に近い、矢場川北岸の低い台地上にあります。周囲には、前期の埴輪を出土したことで有名な小曾根浅間山古墳、後期の横穴式石室が見られる永宝寺古墳、小型の小曾根3号墳と4号墳があります。発見された遺構は、古墳時代の竪穴住居跡2軒、古墳の周溝2基、中世の井戸跡1基、地下式坑1基、溝跡8条、墓穴15基、遺物は、埴輪、土師器、須恵器、勾玉、白玉、中世陶器、内耳土鍋、かわらけ、瓦、鉄製品、鉄滓<sup>てつさい</sup>などです。

古墳時代の周溝は後期、竪穴住居跡は中期に作られたものです。このことから、同じ古墳時代の中でも、この地区が墓になったり、村になったりと移り変わったことも考えられます。住居跡は一辺の長さが5.2 mで、4つの柱穴があります。土器に混じって石製勾玉、白玉が出土しました。玉は、何かの儀式に使ったものと考えられます。中世の墓穴は、L字形に曲がる溝で仕切られた区画の内側に集中しています。このような状況は、他の地域の中世墓地でも見られ、当時の墓の様子を解明する手がかりになります。



小曾根遺跡出土の古墳時代中期土器



奥の林が小曾根浅間山古墳（南東から）

# ■平成 20 年度栃木県内発掘調査一覧

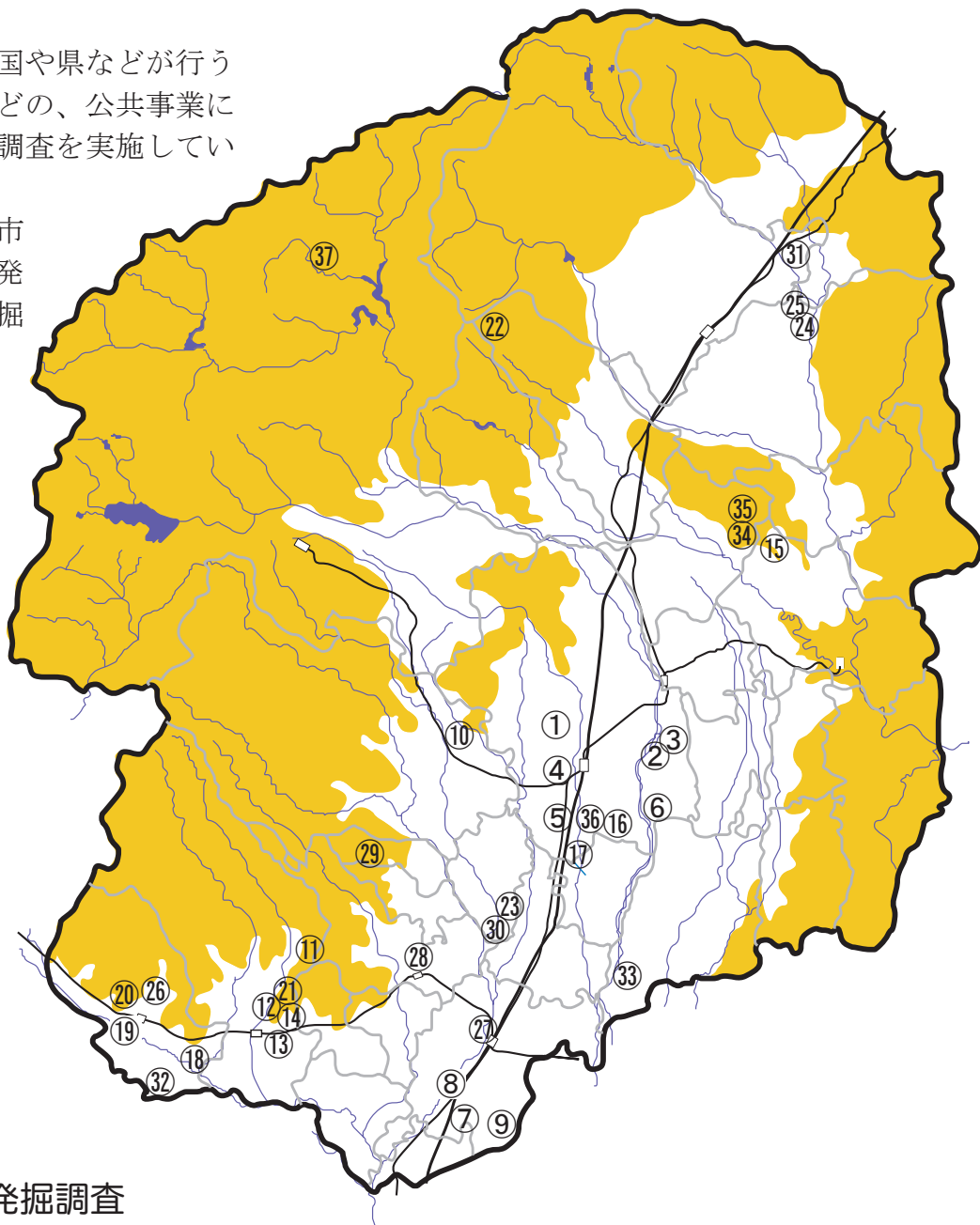
埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。

右図の番号は下表の番号に一致します。



## ◎市町教育委員会が実施した発掘調査

### ●記録保存のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	大塚古墳	宇都宮市	古墳
②	赤高地遺跡	宇都宮市	縄文・古墳
③	刈沼向原遺跡	宇都宮市	縄文・古墳
④	宇都宮城跡	宇都宮市	中世～近世
⑤	雀宮東浦遺跡	宇都宮市	奈良
⑥	鳥井戸遺跡	宇都宮市	古墳～平安
⑦	治松遺跡	小山市	縄文・古墳～平安
⑧	栗宮宮内遺跡	小山市	縄文～平安
⑨	金山遺跡	小山市	縄文・古墳～平安
⑩	鹿沼城跡	鹿沼市	中世
⑪	傾城塚遺跡	佐野市	古墳～平安
⑫	堀米遺跡	佐野市	古墳～平安
⑬	ゴロノミヤ遺跡	佐野市	縄文・古墳～平安
⑭	新町遺跡	佐野市	奈良～平安
⑮	新道平遺跡	那須烏山市	縄文

### ●遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町村	主な時代
⑯	笹塚古墳	宇都宮市	古墳
⑰	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市	奈良～平安
⑰	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	奈良～平安
⑱	奥戸遺跡	足利市	縄文
⑲	新宿遺跡	足利市	縄文～古墳
⑳	機神山山頂古墳	足利市	古墳
㉑	唐沢山城跡	佐野市	中世
㉒	高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峯地区遺跡	矢板市	旧石器
㉓	藤井39号墳	壬生町	古墳
㉔	那須官衙遺跡	那珂川町	奈良～平安
㉕	浄法寺み城遺跡	那珂川町	奈良他

(本調査を実施した遺跡の一覧。確認調査は除外した。)

## ■平成 20 年度栃木県発掘調査動向

発掘調査の届出・通知数は平成 18 年度から増加していますが、本発掘調査の数は減少しています。これは事前の協議により遺跡の保護が図られたことや、公共工事の減少などによるものと考えられます。

国及び県等から委託され実施してきた埋蔵文化財センターの事業の中で、大規模開発に伴う本発掘調査は、今年度ではほぼ終了しました。一方、史跡の保存・整備のための調査は、昨年度から引き続き市町を中心に実施されています。また、その他の機関による学術調査も 3 遺跡で実施されました。

注目された発掘調査では、国指定史跡吾妻古墳の不明確であった墳丘の確認及び範囲確認調査が挙げられます。調査の結果、墳丘の全長が 128 メートルで県内最大であることが確認され、明治初期の発掘後、完全に埋没していた石室が発見されました。史跡整備関係では、宇都宮市、上三川町の上神主・茂原官衙遺跡、足利市の機神山山頂古墳の調査が行われました。指定史跡に向けての調査では、佐野市の唐沢山西麓根小屋地域（隼人屋敷）の調査と、矢板市の高原山黒曜石原産地遺跡群の調査が行われました。保存のための範囲確認調査では、宇都宮市が県指定史跡笹塚古墳の範囲確認調査で、古墳の範囲をほぼ確認しました。他に足利市では、遺跡の範囲が渡良瀬川左岸の河川敷にまで広がる奥戸遺跡の自然崩壊に対する発掘調査を実施しました。増水のたびに遺構が削り取られるため、貴重な記録保存の発掘調査であると思われます。

開発に伴う発掘調査では、縄文時代の遺跡として、さくら市欠ノ上 I・II 遺跡、小山市寺野東遺跡、那須烏山市新道平遺跡、宇都宮市刈沼向原遺跡、古墳時代～中世の遺跡として宇都宮市鳥井戸遺跡、下野市落内遺跡、真岡市市ノ塚遺跡、中世の城跡として鹿沼市鹿沼城跡、真岡市長沼城跡の調査が実施され、遺跡の広がりや性格が確認されました。西方町では、町史の資料収集を目的として弥八田遺跡を調査し、弥生時代の土坑墓を確認しました。

また、那須烏山市、さくら市の長者ヶ平遺跡と東山道跡が平成 21 年 2 月に国指定史跡「長者ヶ平官衙遺跡附（つれたり）東山道跡」となり、今後の史跡整備が待たれます。出土遺物でも、宇都宮市の「飛山城跡出土墨書土器（烽家銘）」（土師器・9 世紀初め頃）が県指定有形文化財になりました。

なお、埋蔵文化財センターでは資料活用を含む普及啓発をより積極的に行っており、平成 21 年 1 月 9 日から 4 日間、実際に遺跡のあった場所（正に遺跡の真上）で「宇都宮インターパーク 昔々、そのむかしー東谷・中島遺跡群発掘調査展ー」を開催し、6,777 人という沢山の皆様に観覧していただくことができました。

今後も、埋蔵文化財センターに保管されている発掘資料を活用し、地域の歴史をより知っていただけるよう活動していきたいと考えております。  
（埋蔵文化財センター調査部長 初山孝行）

### ●史跡整備のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑰	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市	奈良～平安
⑰	上神主・茂原官衙遺跡	上三川町	奈良～平安
⑳	樺崎寺跡	足利市	中世
㉑	小山氏城跡	小山市	中世

### ◎その他の機関が実施した遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
④	宇都宮城跡	宇都宮市	中世～近世
	調査主体者	宇都宮城跡蓮池再生委員会	
㉒	城内町古墳群	栃木市	古墳
	調査主体者	國學院大學栃木短期大学	
㉓	弥八田遺跡	西方町	弥生
	調査主体者	西方町史編纂室	

### ◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑳	吾妻古墳	栃木市 壬生町	古墳
㉑	圃場整備地内遺跡	大田原市	縄文
㉒	小曾根遺跡	足利市	古墳、中世
㉓	長沼城跡	二宮町	奈良～中世
㉔	欠ノ上 II 遺跡 小鍋内 I 遺跡 (江川南部 I 区)	さくら市	奈良～平安
㉕	山の神 II 遺跡 欠ノ上 I・II 遺跡 (江川南部 II 区)	さくら市	古墳～平安
㉖	砂田遺跡 42 区	宇都宮市	古墳～近世
㉗	仲内遺跡	日光市	縄文

## ■巡回展 栃木の遺跡 —最近の発掘調査成果から—

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年も県南・県央・県北の県立3施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

